

## 編集後記

盛況だった「愛・地球博」も今月 25 日に閉幕します。「自然の叡智」をテーマにしている一方でロボット技術，リニアモーターによる鉄道技術，太陽光発電，風力発電などの最先端の科学技術が目玉された万博でもありました。万博を見学した多くの子供たちが科学技術に興味を持ち，将来の「モノ作り日本」を支えていってくれることを願っております。

さて，今月のニュースレターでは，巻頭に研究調査運営委員会の活動内容について齋藤委員長にご紹介いただきました。技術の発達，普及への研究調査活動は重要であり，その運営を統括している委員会の役割を改めて認識することができました。

また，学界情報では IPEC-Niigata2005 について昨年 10 月の新潟中越地震の影響で一時は開催を危ぶむ声もあったようですが参加総数 551 名，海外からは 129 名の参加があり明治大学の三木先生から活発な講演の様態を報告していただきました。資料コーナーには，総務省の家計調査報告から平成 16 年度の平均家計収支を掲載しています。

最後になりましたが，各記事をご執筆いただいた皆様と編修作業に携わっていただいた皆様に深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

エディタ 井手 耕三 (安川電機)

### 【10月号解説「電気が進化させる自動車技術」予告】

寺谷 達夫 (トヨタ自動車)，大熊 繁 (名古屋大学)

21 世紀の車は，環境問題・エネルギー問題を抱えながら，安全・快適性を求めて行く。そのなかで電気技術は，スタター，ワイパ，パワーウインドウなどの電動化，IC 技術やマイコンを用いたエンジンシステムなどの電子化に貢献し，制御の自由度を拡大した統合制御へ向かった。エンジン，ブレーキ，電源の統合制御，車間・レーンキープ統合制御，車外情報を用いた運転支援システムなどが実用化されている。更に新しい動きとしてバイワイヤシステムが開発されるようになった。それらの動きを，電源システム，電装品，パワエレ，モーター，およびバッテリーなどの現状と将来の技術を示すなかで述べる。